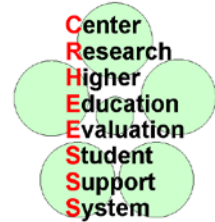


週刊センターニュース No.291



第291号(2010年1月4日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

〇〇〇 第254回共同学習会のご案内 〇〇〇

日時: 1月22日(金) 16時30分-18時00分※開催曜日が通常と異なりますのでご注意ください。

会場: 角間キャンパス総合教育1号館2階会議室

テーマ: 「未来への好奇心の種をまく!サイエンスコミュニケーション」

企画者: 末本 哲雄 (FD・ICT教育推進室)

講師: 矢野 真理子 氏、 武谷 真由美 氏

概要: 近年、日本各地で科学技術コミュニケーションが盛り上がりを見せている。科学技術コミュニケーションとは、単に科学ネタを分かりやすく伝えるだけではなく、複雑な社会問題を専門家と市民の共同から解決していく手段でもある。そのために両者の間における双方向の対話が欠かせない。市民の科学に対する関心が薄れていると指摘される状況で、専門家と市民を結びつける科学技術コミュニケーションに期待が寄せられている。

今回の共同学習会では、国立科学博物館サイエンスコミュニケーター養成講座修了生2名に講演をいただく。彼女らの実践活動や教育プログラムの紹介を通して、本学の科学コミュニケーションについて議論を深めたい。

〇〇〇公開シンポジウム「大学教育の分野別質保証に向けてー日本学術会議からの報告」 参加報告〇〇〇

11月23日(月)に東京大学安田講堂で開催された標記シンポジウムに参加した。このシンポジウムは、「学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ)」(中央教育審議会大学分科会、平成20年3月25日)が出た後、文部科学省から「大学教育の分野別質保証の在り方に関する審議」を依頼された日本学術会議が、いろいろと進めている活動の中間報告会という意味合いのものであった。

第一部では、以下の講演・報告がなされた。

- 「分野別質保証のための参照基準について」(日本大学教授 広田照幸氏)
- 「今日的な教養と学士課程教育」(大阪大学教授 小林傳司氏)
- 「大学と仕事との接続を問い直す」(東京大学教授 本田由紀氏)
- 「大学教育についての産業界の考え方」(日本ユニシス代表取締役社長 榎井勝人氏)
- 「質保証システムを如何に構築するか」(国際基督教大学教授 北原和夫氏)

第二部は、講演者参加によるパネルディスカッション(コーディネーター 朝日新聞東京本社編集委員 山上浩二郎氏)であった。ここからは、広田氏の報告について、簡単に紹介させていただく。

現在、日本学術会議では、分野別質保証のための参照基準作成へ向け、

- 分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準の策定
- 各大学の自主性・自立性の尊重
- 各分野の教育を通して培うものの同定
- すべての関係者の利用に供する公共的な基盤としての役割

という方針を定め、それらに基づき、「大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会」、「質保証枠組み検討分科会」、「教養教育・共通教育検討分科会」、「大学と職業の接続検討分科会」を設置し、議論を進めている。上記委員会等で議論した途中経過を「大学教育の分野別質保証の在り方について(仮題)」

「第一部 分野別の質保証の枠組みについて(案)」という形でまとめたもの(18ページ)が作られ

ているが、「仮題」、「案」とあるように、あくまで検討過程を示したものであり、今後、さらに議論を進めて、内容を固めていくとのことであった。現時点でのポイントとして、いくつか指摘されていたものを紹介させていただく。

- 参照基準だけでは、質保証にならない。
- 各大学が参照基準を取り入れ、活動を目に見えるように（言語化）して初めて保証となる。
- 国家試験、検定試験、JABEE などに関連する専門分野について、この参照基準は、部分的手段になる。
- 参照基準の目的は、学ぶことの意義を同定し共有する点に求められるべき。
- 参照基準は、各大学で参照するために応用可能な抽象的なものであり、具体的な教育課程の編成上どのように肉付けを行うかは、各大学の創意工夫に委ねるべき。
- 学際的・複合的な領域については、あえて個別の参照基準は作成せず、元となる分野のものを組み合わせて使う。

他の報告、パネルディスカッションの内容等については、近いうちに当センター主催の共同学習会での報告を予定している。

専門分野別質保証については、これまででもセンターニュース等で、何度か報告させてきていただいているが、文部科学省、中教審、学術会議レベルでこのような議論が進められていることからわかるように、今後、専門分野別質保証が大学教育において大きな意味を持つようになるのは確実である。金沢大学では、幸いにして学域・学類への再編に際して各学類（専門分野別）カリキュラムの在り方が検討されており、また、人材育成 WG においていくつか挑戦的な取り組みもなされている。今後も、これら専門分野別質保証活動を大学全体として支援し、情報共有・情報公開を進め、金沢大学の教育の質の高さを社会に説明できる体制を構築していくことが重要であると思われる。

（文責 評価システム研究部門 堀井祐介）

○●○ 第4回大学コンソーシアム石川 FD 研修会開催のご案内 ○●○

主催：大学コンソーシアム石川 共催：金沢大学大学教育開発・支援センター

日時：平成22年1月15日（金）13時～14時30分

テーマ：「大学教育におけるeラーニングを利用した授業に対する単位認定」

概要：平成21年11月、大学コンソーシアム石川にe教育支援センターが開設されました。このセンターは、いしかわシティカレッジの授業の質向上のために、ICT教育等の支援やシステムの管理、教材作成支援などをおこなうために設立された組織です。同時に、大学コンソーシアム石川では、ICT教育のための「UCIポータル」を導入し、このポータルでは、シティカレッジの授業等でeラーニングが実施できるだけでなく、コンソーシアム参加高等教育機関の共同利用により、ICT教育の設備がない大学でもeラーニングが可能になります。

今回、正規授業で活用するなどeラーニングに積極的に取り組んでいる青山学院大学から、オンライン学習支援と学習ポータルに関する研究で顕著な業績を挙げておられる齋藤裕氏を講師にお迎えしました。単位認定が可能となる、教育の質を保証するeラーニングはどのように実現できるのか、学生自身が「主体的に学ぶ授業」がそこでどう展開されるのか、報告を聴き、参加者とともに共同討議を行います。是非ご参加ください。お待ちしております。

会場：UCI シティカレッジ教室1（金沢市広坂2丁目1-1 石川県広坂庁舎2階）

プログラム

- 司会 山田政寛（金沢大学 大学教育開発・支援センター 准教授）
- 13時00分 開会あいさつ 古畑徹（金沢大学人文社会学域国際学類教授
大学コンソーシアム石川教務学生専門部会長）
- 13時05分 講演「大学教育におけるeラーニングによる単位認定授業の展開とその支援」
齋藤 裕（青山学院大学 ヒューマン・イノベーション研究センター助教）
- 14時00分 質疑応答（14時30分終了）